

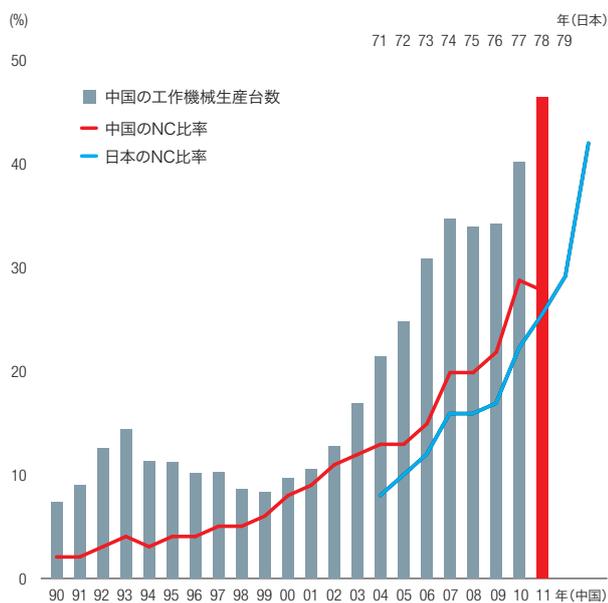
中国展開のさらなる加速により、 拡大する需要を着実に取り込む

THKは1990年代から中国で事業展開を開始し、製販一体体制をいち早く構築してきました。

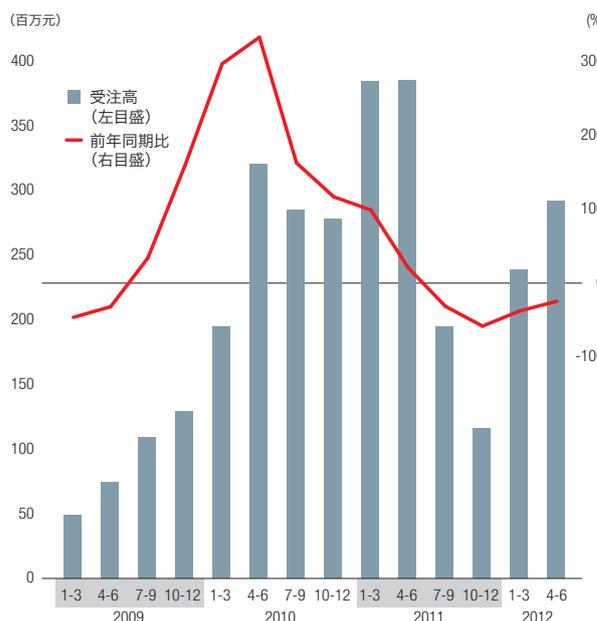
2011年度は、ますます拡大する需要に対応するため、生産能力の大幅増強、販売拠点の急ピッチな拡充を行いました。

さらに、2012年4月には海外初の研究開発拠点の専用棟を稼働させ、現地のニーズに即した製品開発に取り組んでいます。

中国工作機械生産台数とNC比率の推移



THK中国(販社)+THK上海ベースの受注高



(出所: 中国統計年鑑、日本工作機械工業会)



激動の1年となった2011年度に 増収を達成

2011年度は激動の1年となりました。前半は高い経済成長が続く中、中国の受注は主力の工作機械向けをはじめとして非常に好調に推移し、1-3月期、4-6月期と2四半期連続で過去最高を更新しました。後半になって、金融引き締めの影響などにより経済成長が鈍化する中でTHKの受注も減少しましたが、前半の好調な需要を着実に売上高の増加に繋げることができた結果、増収となりました。

販売、生産、開発などで競合他社に 優位性を持つ

THKは、1990年代から競合他社に先駆けて事業展開をスタートさせ、中国国内で生産して販売するという「需要地における製販一体体制の構築」を積極的に推進してきました。2012年7月時点で販売拠点30拠点、生産拠点5拠点を有し、当社の事業体制は競合他社に優位性を持っています。また開発面でも、2010年4月に研究開発部門を設立し、現地のニーズに即した製品開発に取り組んでいます。こうした積極的な取り組みが競争力の源泉となっており、急成長を遂げている中国において需要を着実に取り込むことができ、主力製品において高い市場シェアを有していると考えています。今後も製販一体体制の強化を図ることにより、中国におけるマーケットリーダーとしての地位を確固たるものとしていきます。

NC工作機械の生産台数及び NC比率は着実に上昇

中国の工作機械については、生産台数の増加に加え、NC(数値制御)工作機械の割合(NC比率)の上昇という2つの要因により、THK製品の需要は大きく牽引されていくと考えられます。生産金額は近年急速に増加しており、2009年に世界1位の生産国となった後も、2010年、2011年とその成長はさらに加速しています。

また、日本のNC比率は現在90%ほどなのに対して、中国のNC比率はまだ30%ほどに過ぎません。しかし、今後は所得の増加に伴う高品質な最終製品へのニーズの高まり、さらには労働力人口の減少などを背景として、かつての日本と同様、NC装置の付いた高度な工作機械への需要はさらに増加するものと考えられます。実際に展示会においても、これまでは低価格の汎用機がよく見られましたが、最近では中級機が増えてきています。

2011年度の成果

2011年度、THK中国の売上高は前期比で約2割の増収となり、2期連続で過去最高を更新しました。2011年度後半にかけて金融引き締めの影響などにより受注は減少しましたが、11月を底に回復の動きが見られていることに加え、指導者の交代に伴い景気浮揚策の実施が期待されることなどから、2012年度についても前期に対して2割弱の増収を計画しています。

当社は、中国の高い市場ポテンシャルを確信し、競合他社に先駆けて販売網を拡充するとともに、生産能力の増強を図ってきました。これらの取り組みの結果、2011年度においては、前半の好調な需要を着実に取り込み、増収とすることができました。利益面でも、前期に引き続き、中国は最も収益性の高い地域となっています。中国のマーケットリーダーとして膨大な需要に的確にお応えすることができ、中国市場における当社への信頼はより一層高まっていると感じています。

中期的な取り組み

THKグループ全体では、連結売上高3,000億円の達成を中期的な目標として掲げています。その中で私たちは、今後も高い成長が期待されるアジア市場を舞台に着実に成果を積み上げ、目標の達成に向けて大きな役割を果たしていきます。輸送用機器向けを含めた中国ビジネスとして売上高500億円を中期的な目標に掲げる中、私たちとしてはその達成に向けて引き続き製販一体体制の強化を図っていきます。

輸送用機器向けはFAI事業部を中心として事業展開を推進しており、アジア地域においても自動車業界への積極的なアプローチを図っていきます。加えて、IMT事業部のもと電動アクチュエータ及びユニット製品の採用拡大を進めており、今後は自動化、省力化投資の拡大が見込まれる電動化に関わる分野でも中国市場の開拓に取り組んでいきます。

販売面における施策

中国政府の経済対策や人件費の高騰などを背景にグローバル企業が進出先を多様化させる中、当社製品の需要は従来の沿岸部だけでなく、東北や内陸部を含めて全国的に広がっています。こうした中国の広大な事業エリアの中で、地域密着型の営業を展開するため、販売網の拡充を急ピッチで進めています。2012年7月時点で30拠点体制となっており、2014年には60拠点体制を目指し、さらに販売網を拡充していきます。

販売体制の強化においては、こうしたハード面の拡張とともにソフト面を充実化させることも重要となります。このため、2011年度は現地スタッフの増員を図り、約80名の新規採用を実施しました。中国でもより高級品が求められ顧客のニーズが高度化する中、中国の研究開発部門とも連携しながら当社独自の徹底した人材教育を実施するとともに、現地スタッフ一人ひとりのスキルアップを促進していきます。

さらに、大手の工作機械メーカーなどの既存顧客との取引拡大を進めるとともに、新規顧客の開拓にも取り組んでいきます。

中国展開のさらなる加速により、拡大する需要を着実に取り込む



大久保 孝

取締役
THK(中国)投資有限公司 総経理

具体的には、各地域における展示会の開催や効果的なWebサイトの活用など、多面的なPR活動を展開していきます。

生産面における施策

当社は、増大する需要を着実に取り込むべく、中国国内の各工場において生産能力の増強を進めており、2012年6月現在では2011年年初と比べて倍以上の生産能力とすることができました。

大連THKでは、機械設備を導入するとともに、昨年8月に増築工事が完了しました。今後はさらなる増産に向けて、現在の約4倍の敷地面積を持つ新工場への移転を予定しています。THK無錫では、昨年からの建設を進めていた第3工場が完成し、今年5月に稼働しました。それらに加え昨年4月には、中国5番目の工場として、自動車部品を生産するTHKリズム常州を設立し、今年7月に客先への納入を開始しました。さらに今年4月には、中国6番目の工場として、直動関連の材料及びユニット品を生産するTHK常州を設立し、10月に着工を予定しています。

これらの取り組みに加え、中国工場は今後、国内の需要に対応することはもとより、グローバルな輸出機能も担っていきます。既に米州、欧州、台湾地域への製品供給を開始しており、こうした動きを受けて中国の受注が増大する中、今年4月からは4班3直体制のフル稼働体制を敷き、全従業員の総力を挙げて生産量の増加に邁進しています。

開発面における施策

2010年4月に海外初の研究開発部門となる技術統括部をTHK中国の本社内に立ち上げました。現在、中国市場の拡大とともにお客様のニーズも多様化しており、今後はそうした現地のニーズに応じた高付加価値な製品供給が重要となってきます。技術統括部の設立以後、人材教育に注力してきましたが、2012年4月にはその専用棟となるR&Dセンターを稼働させ、日本の技術開発部門とも連携しながら現地のニーズに即した製品開発を加速させていきます。

また、当社は世界のどの工場で生産しても同じ品質となる「グローバル品質」を標榜しており、さらなる市場シェアの拡大を目指すためには、品質を維持しつつもコスト競争力を強化することが重要となります。そのため、材料の現地調達化を図るとともに、可能な限り内製化を推進していきます。

その他新興国への展開

これまで述べました通り、当社は競合他社に先行して中国での事業展開をスタートさせ、中国における製販一体体制の構築・拡大を積極的に進めてきました。その結果、多くの先行者メリットを享受しながら着実な成長を果たしています。

こうした中国における展開を踏まえ、メキシコではTHK RHYTHM MEXICANAを設立し、インドでは今期直販を強化するとともに現地法人の設立を予定するなど、当社はその他の新興国においても積極的な展開を図っており、今後はその動きをさらに加速させていく考えです。

